

たいまでら 當麻寺

聖徳太子の弟・麻呂古王が河内に創建した万法蔵院がはじまりで、夢の導きにより二上山の麓、當麻の地へ移ったという。当時の三重塔が東西二塔残るほか、飛鳥時代に造立された弥勒如来や四天王像、「當麻曼荼羅」などが伝わる大和の名刹のひとつ。



◆中將姫

747～775
聖武天皇の頃、現奈良市で生まれ、14歳の頃から3年間、宇陀の雲雀山で隠棲、17歳（763年）で仏門（當麻寺）に入り、29歳で極樂往生したと伝わる伝説上の人物。

●年表

747年	藤原豊成の娘として誕生
759年	13歳で中將の内侍となり、中將姫と呼ばれる
763年	17歳のとき、當麻寺で出家法如尼となる
775年	29歳で、西方浄土へ迎えられる

中將法如尼となった姫は、来る日も来る日も阿弥陀仏を念じる修行の日々でしたが、ある時、阿弥陀仏の化身の老尼が現れ、たくさんの蓮の茎を集めさせて、共にその糸で美しい曼荼羅を織り上げました。775年、姫は阿弥陀如来と二十五菩薩の来迎を受けて、29歳のとき西方浄土へ旅立たれたと伝わります。當麻寺近くの石光寺にはハスの糸を五色に染めた井戸「染の井」と、糸を掛けて干したとされる「糸掛桜」があります。

阿弥陀来迎で極樂往生

幼くして母を亡くした姫は多感な少女時代に変転極まりない世相に無常を感じたり、父の後妻との間に摩擦があったりしたのでしょいか。伝説では父が留守の間に継母が家来に姫の暗殺を命じ、その家来は忍びなさに3年間、姫を世話、姫はその後、當麻寺に入って髪を下ろしたとされます。姫17歳の時のことでした。

中將姫、當麻寺へ

伝説では、中將姫の父は藤原豊成だったといえます。藤原鎌足を曾祖父に、祖父に不比等、武智麻呂（藤原四兄弟の長子）を父に持つ豊成公は、長屋王の変など、政界の表裏をつぶさに体験しましたが、偏り争うことなく官職の任務を果たしていたようです。その後、右大臣に弟・仲麻呂の命で、大宰府左遷になるところを、難波に留まり、後に身の潔白が証明され、右大臣に復帰しました。

藤原家直系の父・豊成公の娘
伝説では、中將姫の父は藤原豊成だったといえます。藤原鎌足を曾祖父に、祖父に不比等、武智麻呂（藤原四兄弟の長子）を父に持つ豊成公は、長屋王の変など、政界の表裏をつぶさに体験しましたが、偏り争うことなく官職の任務を果たしていたようです。その後、右大臣に弟・仲麻呂の命で、大宰府左遷になるところを、難波に留まり、後に身の潔白が証明され、右大臣に復帰しました。

誕生寺・高林寺・徳融寺

中將姫が誕生し産湯を使ったとされる奈良町の誕生寺にはその井戸が今も残ります。そのはす向かいにある姫の父・藤原豊成公の館だったとされる徳融寺には、豊成・中將姫父子の供養塔があります。また、近くの尼寺・高林寺も、豊成公の邸宅の一つであり、姫の修学の道場だったと言われています。

特別展 當麻寺 ―極樂浄土へのあこがれ―

◆2013年4月6日（土）～6月2日（日） 奈良国立博物館

當麻曼荼羅完成1250年記念

當麻曼荼羅と

中將姫伝説

天平宝字7年（763）、一人の高貴な姫が極樂往生を願う思いによって奇跡の曼荼羅を織ったという伝説があります。



中將姫坐像（當麻寺蔵）



国宝 繡織當麻曼荼羅部分（當麻寺蔵）
30年ぶりの公開!!

當麻曼荼羅の展示期間

◆国宝「繡織當麻曼荼羅」（根本曼荼羅）當麻寺蔵：4/6（土）～14（日）、4/23（火）～5/6（月・休）
◆重要文化財「當麻曼荼羅」（文龜本）當麻寺蔵：4/16（火）～21（日）、5/21（火）～6/2（日）
◆重要文化財「當麻曼荼羅」禪林寺蔵：5/8（水）～19（日）

主催＝奈良国立博物館、當麻寺、読売新聞社

後援＝文化庁、奈良県、葛城市、NHK奈良放送局、奈良テレビ放送

協賛＝あいおいニッセイ同和損保、岩谷産業、きんでん、清水建設、大伸社、大和ハウス工業、非破壊検査

協力＝シーシーエス、JR東海、日本香堂、仏教美術協会

【問い合わせ】NTTハローダイヤル Tel. 050-5542-8600

當麻寺

二上山の東麓に位置する、中將姫ゆかりの寺

〈拝観時間：午前9時～午後5時／奈良県葛城市當麻1263〉

伽藍三堂
當麻曼荼羅を収める厨子が螺鈿の美しい須弥壇上に安置されています。

重要文化財 金堂
現存する日本最古の塑像である弥勒仏坐像（国玉）をはじめ、荘厳な白鳳仏を拝観できます。

重要文化財 講堂
平安時代から鎌倉時代の仏像群がまつられ、さまざまな時代の仏さまに出会えます。

※5月13日～16日は大人600円、小学生300円
※伽藍三堂の拝観券もしくは當麻寺展の半券が必要です

鐘楼
白鳳時代に鑄造された、日本最古の梵鐘（国玉）があります。

梵鐘の特別公開
★展覧会会期中、鐘楼横に足場を組み、間近から梵鐘をこじただけです

国宝 東塔、西塔
ともに三重塔で東塔は奈良時代に、西塔は平安時代に建立されました。古代の東西両塔が残っているのは全国で當麻寺だけです。

中之坊／☎0745-48-2001
大和三名園に数えられる庭園や、中將姫ゆかりの宝物を展示した靈宝館などが拝観できます。絵天井の下で写仏体験もできます。
●大人500円、小学生250円

西南院／☎0745-48-2202
庭園から西塔の優美な姿を眺め、「水琴窟」で水の妙音を楽しむことができます。4月から5月はしゃくなげや牡丹が見頃。
●大人300円、小学生150円

奥院／☎0745-48-2008
京都の知恩院の「奥之院」として建立され、浄土宗の大和本山として信仰を集めてきました。四季折々の花が咲き乱れます。
●大人300円、小学生150円

護念院／☎0745-48-2004
練供養会の面や装束のすべてを管理しています。庭園では牡丹やツツジを楽しめます。樹齢三百年のしだれ桜も有名です。
●大人300円、小学生150円

スタンプラリー実施!
展覧会会期中、本展と當麻寺（※）を巡るスタンプラリーを実施します。本展観覧スタンプで當麻寺の拝観が割引になり、當麻寺拝観スタンプで本展の観覧が当日料金の200円引となります。規定数以上のスタンプを集めれば記念品をプレゼント！ 詳細は奈良国立博物館HP（<http://www.narahaku.go.jp/>）で。
（※）拝観スポットは伽藍三堂と4塔頭の計5か所です。



葛城市マスコットキャラクター 「蓮花ちゃん」

當麻寺周辺では、ボランティアによる観光案内を行っているの。詳しくは葛城市ホームページを見てね。お問い合わせは葛城市相撲館（0745-48-4611）へどうぞ。

監修：奈良国立博物館 編集：読売新聞社、読売奈良ライフ



元気になる情報誌「yomiっこ」

奈良を中心に、京都府相楽・三重県伊賀の情報も満載した、元気になる月刊地域情報誌。グルメ情報から読み物、まちネタまでぎゅーっと詰まった一冊です。読売新聞販売店、一部書店で取り扱っています

イラスト制作

（株）読売奈良ライフ

奈良市内侍原町12-2
TEL.0742-27-7441 FAX.0742-27-7413
<http://www.ynl.co.jp>

〔奈良の総合情報サイト 奈良っこ〕運営 <http://www.narakko.com>



當麻曼荼羅の世界

當麻曼荼羅には何が描かれてるの？

極楽浄土を観たいという中将姫の願いにより織られたとされる4m四方の巨大な曼荼羅。輝かしい浄土の光景がさまざまな仏菩薩や天人が集まって表されています。画面の左側にはインドのとある国の王妃が極楽浄土への往生を願うストーリーが、右側には浄土を心に想い描くための教えが示されています。下辺には生前の行いにより往生の仕方が分かれるという内容の絵が描かれています。これは「観無量寿経」という經典に説かれている内容です。

灯りをもとす油が
なくても心の月を
輝かせればいいわ



心に調和の世界を…

お互いに慈悲の心を持って生活すれば
このような世界になるのですよ

こうして浄土を
願った！実録

はじまり
インドの
とある国のお話

息子、悪友に
そのかされ
王位を奪おう
と父王を幽閉

しかし、母は
ひそかに王の
もとを訪ね、
父は無事

息子は激怒し、
母を殺害しよう
とするが家来に
たしなめられる

母も幽閉される
やつれた母の
とを訪れた釈尊

釈尊、さまざま
な美しい世界を
見せる。

私も浄土の
世界に
生まれたい

心に想えば
良いのです
どうして
いいのですか？



画面上部は空。
雲に乗って飛ぶ仏菩薩の姿が見られます。



中央部は楼閣。何層にもなった
建物もあり、立派ですね。
ここは食堂でしょうか？

菩薩心のイメトレ
阿弥陀様と
極楽浄土を
想う方法！

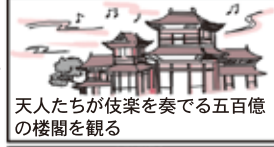
左のつづき



西を向いて正座し、沈もうとする
太陽を見る



清らかな水、瑠璃色の大地など
極楽の自然を観る



天人たちが伎楽を奏でる五百億
の楼閣を観る



仏さまが座る蓮の台を想う



三尊が座るさまを観る



三尊を一人ずつ、くわしく想う。



自分が極楽世界に生まれて、
蓮華の上に座る姿を想う



極楽の池の上にいる阿弥陀三尊
を想いましょう

勢至菩薩 阿弥陀仏 観音菩薩

画面下部は蓮池。楽器の
演奏や踊りが行われていて
楽しそうです。

数々の罪を背負う 極悪人 あなたはどの往生？ 生前の行い別ランキング9・往生ガイド 一瞬で往生！ スーパー善人！



苦しいが、なんとか往生できる



出家はしていないけれど、善人
腕を曲げるぐらいの時間で往生



出家し、よく修行した人
たくさんのお迎えがきます



極楽浄土というの
は私たちの心の中にあり、
また自分自身で
作ることができる
世界なんですよ



奈良時代の聖女・中将姫



11歳の頃、父・豊成は政治の嵐
に陥り、左遷されます

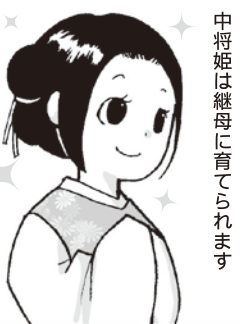


*雪の日に松にしばりつけて
お仕置きしたとか…

そんな日々美しく、賢くなつて
いく娘を継母は疎ましく
思うのでした



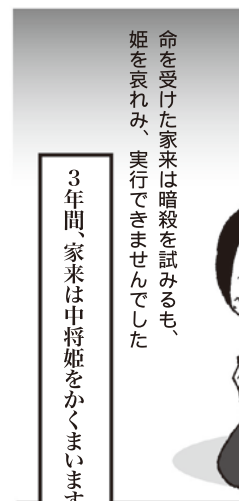
幼き頃から才覚あふれ、
天皇の前で琴の演奏を
披露する機会もありました



5歳の時に母を亡くしたため、
中将姫は継母に育てられます



七四七年、中将姫は藤原不比等の
孫・豊成の娘として生まれました



命を受けた家来は暗殺を試みるも、
姫を哀れみ、実行できませんでした



あなたもこんな命を受け、
つらいでしょう。でも、私はこれで
亡き母の元へ行けるのです。
哀れに思わないでください



あんな娘を
雲雀山へ連れて
行き、そこで
始末なさい



夫・豊成が不在の間を狙い、
継母は中将姫を暗殺しようとして
企みます



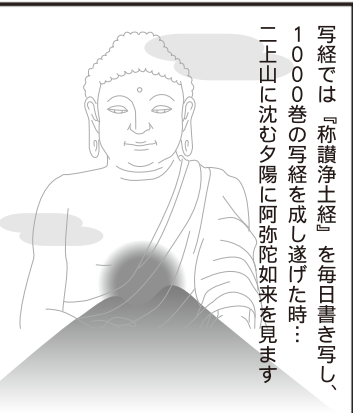
中將姫はこの頃から世の無常を知り、
仏門に帰依するようになっていきます



3年後、家来は中将姫をかくまいます



その姿に引かれるまま、二上山のふもと、
當麻寺へと足を運び、一層、み仏に
祈りをささげるようになります



写経では『観無量寿経』を毎日書き写し、
1000巻の写経を成し遂げた時…
二上山に沈む夕陽に阿弥陀如来を見ます



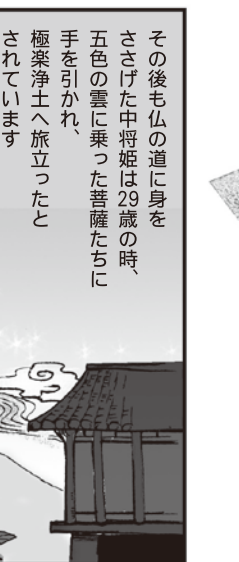
私はみ仏に
お仕えしたいです



3年後、豊成は奈良へ戻ります
雲雀山へ狩りに出かけたところ、
中將姫と出会い、父娘は再会します



その様子
再現した
『練供養』は
毎年5月14日に
現在も當麻寺で
行われています



その後も仏の道に身を
ささげた中将姫は29歳の時、
五色の雲に乗った菩薩たちに
手を引かれ、
極楽浄土へ旅立ったと
されています



中將姫は天皇に願ひ、蓮の茎を集めず。
糸を紡ぎ、織り上げた曼荼羅は
一夜にして完成させたと言われています



現身の仏の
お姿を見せて
ください



すると、一人の老尼が現れ…
私は阿弥陀仏の化身。
百馬に積めるだけの蓮の
茎を集め、
その茎から糸を紡ぎ、曼荼羅を織るのです。

當麻曼荼羅の完成